

非思量 NO.240

自尊心は他尊心

明日30年余り続いた平成時代が終わります。

天皇陛下の生前退位に伴い、悲愴感は少なく何か希望に満ちた世代交代を感じさせます。

平成時代の名曲と言えばSMAPが歌いヒットした『世界に一つだけの花』を思い浮かべます。この曲は仏教の教えに由来している事がよく知られています。作詞作曲を手がけた槇原敬之さんは、自分自身の不祥事により逮捕された際に、自分を見つめ直すために仏教に出会いました。その時に人生をテーマにして書き上げた楽曲が『世界に一つだけの花』だそうです。冒頭の「NO. 1にならなくてもいい、もともと特別なOnly one」という歌詞は、「天上天下唯我独尊（広い世界の中で唯一人、私にしかできないことがある）」という人間の尊厳性の考えを基に書かれたと言われています。また、『仏説阿弥陀経』の一節、「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」を基に歌詞が書かれたと言われています。この一節は、浄土にはいろいろな種類の花が咲いているが、それぞれが各々の個性を認め、尊重しあって存在しているという意味です。

新元号「令和」が発表された際、安倍首相は「若者たちが大きな花を咲かせ、希望に満ちあふれた日本を作り上げたい。」と言いました。先日、引退を発表したイチロー選手、平成最後の静岡ダービーで得点し歓喜したエスパルスのチョン・テセ選手も若い頃は自分のためにプレーしていたが、ある時を機に自分を応援してくれる人たちの為にプレーするようになったと発言していました。人は歳を重ね多くの経験をしてくると、この世界で自分自身が多くの支えの中で生かされていることが実感できるようになります。これからの時代を築く若者達にも多くのチャレンジできる場を与え、それらの経験の中で失敗も糧にしながら大輪の花を咲かせてほしいです。花を咲かせられる人は自ずと気づくのです。自分を尊ぶのと他人を尊ぶことは同じであることを。

私たちは、新たな時代もそんな普遍的な教えに導いてくださる仏教の教えを心の支えにして生きていきたいです。